

一般社団法人はなそう基金 2015年度12月末決算

2016年3月31日

一般社団法人はなそう基金

代表理事 古森 剛

2015年度 決算について

一般社団法人はなそう基金を様々な形で応援して下さっている会員及びパートナーの皆さま、いつもありがとうございます。おかげさまで、当基金も2016年3月6日に設立満4年を迎えることができました。感謝の意を込めつつ、2015年度の決算についてご報告いたします。

今般の決算の特徴は、非営利事業(非課税)において当期利益が▲886,347円のマイナスになったということです。寄付金を主たる収入源とする非営利事業の収入は2,476,636円を計上しており、決して収入が弱かったということではありません。当期も、皆さまの応援によって健全なレベルの収入は確保されていました。

一方で、当期は「Komo's英語音読会@陸前高田」をはじめとする既存の活動がさらに継続・充実し、それに伴う各種運営費用や恒例の英語サマーキャンプ(SCOA)への中高生派遣にかかる費用も例年並みの確保が必要でした。加えて、気仙沼・東陵高校の生徒15名を英語サマーキャンプ(SCOA)の特別プログラムに初めて派遣するなど、積極的に新規活動を起こしたことが収益を上回る費用計上へとつながりました。

これは、単年度の損益計算書の帳尻ではなく、手元現金の残高を見ながら、「当基金の存在意義に照らして意義のある活動の好機を逃さず動く」ことを優先した経営判断によるものです。結果的には、そうした新規活動を起点にして、英語音読会が気仙沼の東陵高校・インターアクトクラブでも開催され始め、新たな社会的意義が生まれました。今後も、手元現金の許す範囲で、基金の意義に沿った適時適切な経営判断を心がけます。

また、収益の総額が健全な水準にあるだけでなく、そのクオリティも高くなっていることも特筆すべきことと認識しております。まずもって、基金設立当初から定期的に寄付をして下さっている皆さまの多くが、依然として寄付を継続いただいている事実心より感謝の意を表明させて頂きます。本当にありがとうございます。加えて、2015年は寄付源の多様化が進みました。

2013年に発足した「Komo's英語音読会@東京」からの寄付は、基金財政に極めて重要な安定感を与えるに至りました。その主たる活動である「チャリティー“ほろ酔い”英語音読会」では、東京のビジネスパーソンの英語音読の場から参加各回ごとにお一人1,000円の寄付を頂戴しております。

2015年度 決算について

また、英語音読会@東京の派生形として、企業様におけるクローズド形式での英語音読会を開催いただく機会も増えてきました。当期には、マーシュジャパン株式会社様、マーサージャパン株式会社様、MSD株式会社様、株式会社若菜様(ウォルマート西友グループ)に英語音読会を実施いただき、当基金の活動の場がさらに広がりました。

「自ら英語を学びながら東北被災地への寄付も行う」というスタイルが定着してきたことは、誇るべき進展の一つです。また、東京での英語音読会の参加者の中から、東北における英語音読会のボランティア講師として活動を始める方も継続的に生まれており、資金面だけでなく活動面でも東京と東北の好循環が生まれております。

さらに、会員コミュニティの中での自発的な活動も芽生えてきております。当期の寄付金額にはまだ反映されていませんが、「Run for はなそう基金」というマラソン・ファン有志の集まりが当期中に発足しております。仲間を募ってマラソンに参加することで寄付を募ったり、日常の中で各自が走った距離を申告しながら寄付を行うなど、斬新で意欲的な取り組みです。

こうした活動が自発的に芽生えていることに、驚きと喜びと感謝の意を抱かずにはいられません。本当に素晴らしいことだと思います。なお、「Run for はなそう基金」のコミュニティからの寄付は、2016年度以降の”Let’s Talk Ambassador”の海外渡航費用など、用途目的を設定する形で当基金へ寄付されていきます。

当期における当基金の各種活動内容につきましては、ウェブサイト(<http://www.lets-talk.or.jp/>)の記載を是非ご覧いただければと存じます。迎えた2016年度以降も、見た目の良さや理屈を追わず、地道に着実に継続的に、東北被災地の現実の人間社会に向かいながら、活動の充実へと取り組んで参ります。皆さまの引き続きのご支援を心よりお願い申し上げます。

2016年3月
一般社団法人はなそう基金
代表理事 古森 剛

2015年度 貸借対照表

2015年12月31日 (単位:円)

資産の部		負債の部	
【流動資産】	2,019,068	【流動負債】	265,920
現金及び預金	2,013,559	未払金	265,920
商品	5,509	【固定負債】	1,019,620
		長期借入金	1,019,620
		負債の部合計	1,285,540
		純資産の部	
		【株主資本】	733,528
		利益剰余金	733,528
		その他利益剰余金	733,528
		繰越利益剰余金	733,528
		純資産の部合計	733,528
資産の部合計	2,019,068	負債及び純資産合計	2,019,068

一般社団法人はなそう基金の運営は、その活動の性質上特に大きな資産や負債を保有するものではありません。基本的には、流動資産(現金及び預金)が資産の大半を占め、「商品」として計上されているものは書籍・冊子等の在庫分です。

また、負債の大半は創業時に設立時社員(代表理事 古森 剛)が無担保・無期限で融資したもので、その他は会計処理タイミングにより生じる未払金等となります。

2015年度 損益計算書

2015年1月1日～12月31日（単位:円）

【売上高】		
売上高	350,384	
売上高合計		350,384
【売上原価】		
期首商品棚卸高	333,249	
合計	333,249	
期末商品棚卸高	5,509	
商品売上原価		327,740
売上原価		327,740
売上総利益金額		22,644
【販売費及び一般管理費】		
販売費及び一般管理費合計		3,311,148
営業損失金額		3,288,504
【営業外収益】		
受取利息	347	
雑収入	2,476,636	
為替差益	36	
営業外収益合計		2,477,019
【営業外費用】		
為替差損	19,203	
営業外費用合計		19,203
経常損失金額		830,688
税引前当期純損失金額		830,688
法人税等		55,659
当期純損失金額		886,347

一般社団法人はなそう基金の運営においては、「売上高」「売上原価」「売上総利益」のカテゴリに含まれるものは書籍・冊子等の販売に関わるものです。税法的には、この部分が営利事業に関わる売上関連項目となります。これらに紐づく販売費・一般管理費を最引いたものに関して、応分の税金を納めております（非課税事業がマイナス収支でも、別個に課税）。当基金における最大の収入項目は寄付を主体とする雑収入であり、こちらは非営利事業に関わるものとして非課税の扱いとなります。当年度は、既存の活動の継続に加え、機をとらえた新規活動開始により非営利事業はマイナス収支でした。

2015年度 販売費及び一般管理費内訳

2015年3月31日～12月31日 (単位:円)

旅費交通費	871,120
通信費	60,046
事務用消耗品費	4,722
新聞図書費	1,512
支払手数料	4,320
車両費	253,229
租税公課	200
支払報酬料	162,000
雑費	1,953,999
販売費及び一般管理費合計	3,311,148

一般社団法人はなそう基金の当期における販売費及び一般管理費の内訳における主たる費目は、「旅費交通費」、「車両費」、「雑費」でした。「旅費交通費」には、毎月のKomo's英語音読会@陸前高田に際して基金代表理事が建替える高速道路代、英語サマーキャンプ(SCOA)派遣時の新幹線代、「Let's Talk」Ambassadorの海外派遣に関わる渡航費などが含まれています。「雑費」には、毎月開催の「Komo's英語音読会@陸前高田」の会場として使用する「りくカフェ」の使用料、英語サマーキャンプ(SCOA)に関わる参加費(新規に開始した気仙沼・東陵高校の生徒15名の特別プログラム参加費を含む)等が計上されています。